

現代社会と福祉Ⅰ

専門教育科目／2単位／T授業

担当教員 横山 裕

■使用テキスト 社会福祉士養成講座編集委員会(編)
「新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉」〔第4版〕中央法規出版 2014
ISBN：798-4-8058-3251-6

◆参考テキスト 弘文堂 福祉臨床シリーズ編集委員会(編)「現代社会と福祉」
ISBN：978-4-335-61074-5
時潮社 杉山博昭(編)「現代福祉学入門」 ISBN：978-4-7888-0641-2

講義概要・一般目標

社会福祉学を学習する基礎科目として位置づけ、基礎知識の習得を第一の目的とするが、単なる用語の暗記や、キーワードの理解とならないよう、新聞、雑誌を活用し、自ら奥行きを持たせた学習が必要である。

学習は、社会福祉の理念・思想、歴史、制度などについて、具体例、実践例を活用しながら概括的に講義を行い、理解を深める。その上で、現代社会における福祉的問題について、考え方、アプローチの方法などについても考察する。

【学習上の心得】

社会福祉学は「生活者の視点」から、社会現象や社会的課題を「自らに引きつけて」考えることが重要です。そのためには「なぜ」・「どうして」という視点から問題へと向き合うことと言えます。「知的好奇心」を大いに発揮して学習されることを期待しています。

到達目標

- 1) 学習者が、社会福祉と福祉政策について、その歴史や現状における相互関係について学ぶ。
- 2) 学習者は、学んだことをもとに現代社会における社会福祉のありようについて包括的かつ体系的に理解することができる。
- 3) 学習者は、他の関連福祉科目を学習する際に福祉の全体像のなかで個別領域の関連福祉科目を理解することができる。
- 4) 最終的には、国家試験の「現代社会と福祉」分野で合格点を獲得するに十分な学力が身に付くように配慮する。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

序章 視点と枠組み

この章のポイント

社会福祉概論を学習する場合に留意すべき点について理解する。すなわち、新社会福祉士養成教育課程における社会福祉概論の位置づけを理解して欲しい。また用語の定義について正しく理解してほしい。

第1章 社会の変化と福祉

この章のポイント

我が国で現在起こっている社会変化について理解して欲しい。それはその変化が現代の福祉で扱う問題を発生させているからである。社会変化とは具体的に、人口、労働、経済、国際問題、家族形態などである。

また、変化の歴史を理解することによって、福祉国家がどのような社会状況のもとで、どのような福祉制度を開発して発展してきたかについて正しい知識を持って欲しい。

第2章 福祉と福祉政策

この章のポイント

社会福祉の成立させる福祉の考え方や福祉政策について理解する。そのうえで、社会福祉の領域における専門職としての社会福祉士に期待される役割と機能について理解を深める。

第3章 福祉の思想と哲学

この章のポイント

本章では現代社会の一つのあり方である市場の倫理を理解する。そのうえで福祉の思想の独自性と重要性を理解し、現在の福祉思想に大きな影響を与えているロールズとセンの哲学を学び福祉への理解を深めて欲しい。

第4章 社会政策と福祉政策

この章のポイント

本章では、福祉が福祉政策と不可分であることをしっかりと認識して欲しい。そのうえで、福祉政策が他の社会政策とも関連していることにも考えを巡らせることができるようになって欲しい。

第5章 福祉政策の発展過程

この章のポイント

本章では、福祉成立の歴史的特性について理解する。

歴史的にどのような福祉的課題があり、いつ、だれが、どのようにその課題に取り組んできたのか、そしてその結果、社会はどう変わったのか理解する。

第6章 少子高齢化時代の福祉政策

この章のポイント

本章では、我が国における高度経済成長後のいわゆる単純な貧困解決以外の福祉課題が生じてそれに対処して来た過程を理解する。具体的には各種の社会保障に代表される福祉システムがどう設計され、どのように見直されて来たのかを理解する。

第7章 福祉政策における必要と資源

この章のポイント

社会福祉の最も基本的な概念である「必要」と「資源」について社会福祉で言われる際の概念を正しく理解して欲しい。また、この二つの概念がどのように判断・判定されるのかについても理解して欲しい。

第8章 福祉政策の理念・主体・手法

この章のポイント

本章では、福祉政策の理念、主体、手法について理解する。具体的には、福祉制度を成り立たせる背景にどのような理念や手法があるのかを社会福祉の専門職をめざす者として探求する視点を身につけてほしい。

第9章 社会福祉政策におけるニーズと資源

この章のポイント

本章では、福祉政策と密接に関連する人権擁護、保健医療、所得政策、雇用、教育、住宅について、具体的にどのように福祉が関連するのか個別に考察して福祉のカバーする領域の広さを理解して欲しい。

第10章 社会福祉制度の体系

この章のポイント

本章では、社会福祉制度を成り立たせている各法律について個別に理解し、それがどのように関連して社会福祉制度全体で機能しているのか理解して欲しい。特に、社会福祉基礎構造改革前後の変化について措置とサービスという言葉に注意して学習してほしい。

第11章 福祉サービスの提供

この章のポイント

本章では、現在福祉サービスを提供しているさまざまな機関・組織について理解する。またその機関・組織に所属して実際に提供している専門職についても理解する。

加えて、福祉サービスの適正な提供のための新しい機関、地域包括支援センター、第三者評価機関、運営適正化委員会、情報公表センターなどについても理解する。

第12章 福祉サービスと援助活動

この章のポイント

本章では、社会福祉援助技術の基礎について理解して欲しい。

具体的には、バイステックの7原則、システム的な視点、生活モデルと病理モデル、ストレングスとエンパワメントなどを理解する。また援助の一般的な展開過程も理解する。

第13章 福祉政策の国際比較

この章のポイント

本章では、福祉政策の国際比較を通じて世界の福祉について理解して欲しい。

具体的には、社会政策の3類型や、スウェーデン、アメリカ、ドイツの高齢者介護のあり方についてその実態と背景にある考え方などを理解して欲しい。また、日本の近隣のアジア各国の福祉についても知る。

第14章 福祉政策の課題と展望

この章のポイント

本章では、我が国が現在かかえる福祉的課題をグローバル化とローカル化の視点、地域ケアシステムの視点、公共圏の開発とセーフティネットの再編の視点で考え直し、これからの社会福祉への展望について理解して欲しい。